







宗像大杜歌会 俳句作品集(三)

鎌崎 若嶺 辰夫 耕運機動き初め梅雨に入る 津屋崎 井浦 良介 空居居坐る横巻の街雨降す 名古屋 野崎 傳三 打木や庭に響め石の鏡 八幡石 磯谷 緑雨 老若しアールホルンに吹汗 田熊 安部 ゆき いて湯指袋裁縫つじ 久留米 入江 柳江 荒庭に留守守な掃葉 田熊 力丸 一郎 青梅の葉のほどに脂つ 藤沢 玄洋子 独りて田圃機は舞をむせせく 飯塚 花田 耕月 砂浜に夕陽をうけて月見草 津屋崎 熊本 潮の音の投げ串刺の夕焼ける 宗像 吉田 裕子 くちの匂い心の深きり 福岡 広波一寿軒 胡麻豆腐母手ふりの星の味

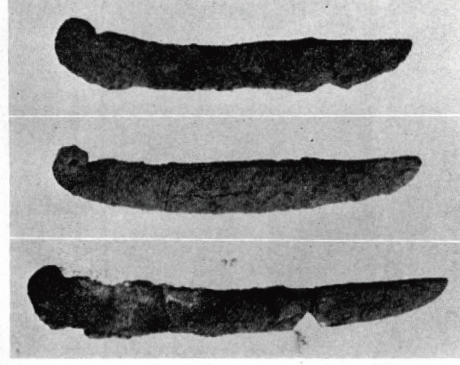


宗像大杜 歌会詠草

東福岡 山本 夏枝 むしあなが夏の日のぬれつをれし朝雲露色に照る 原町 中村 幸 牡丹咲 青戸の畑の白濁りを房張りの野良猫がけ 田熊 兼次 鴨子かた代白鼠の身へみまをうきききと菊の揺ゆよみがかりたり 幸せは月分てつかぬを言ひて教へ子たち別れをけり 東郷 藤崎 辰子 花もち 蛭巻折りたればものなし 紫蘇の白ひが胸かく沁む

宗像郡考古学散歩

上高宮古墳(2) (玄海町田島所在)



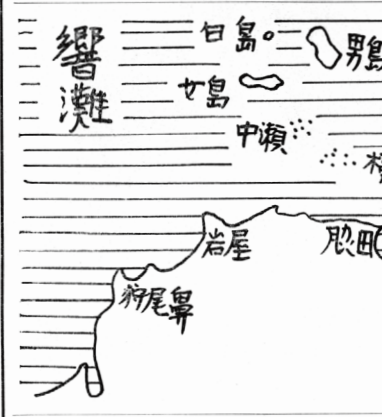
昭和四年刊行された第三次調査の決定的ともいべき、宗像郡田島本文には「豊安三年に備へた、矢の根七本が出土して、その記述は、

昭和四年刊行された第三次調査の決定的ともいべき、宗像郡田島本文には「豊安三年に備へた、矢の根七本が出土して、その記述は、

鐘崎民俗誌 その三十三

海女漁 (その十一)

昭和九年の社会政策時報一七二号に掲載している故郷日勝徳氏の「筑前鐘崎海女」といふ記事は、一編鐘崎宗像郡村大字鐘崎に昔より一坪の島、筑前の野北の島をもつていた野崎村に持たぬと書き出しが、集落の歴史を述べて、



鐘崎の漁民たちが一本釣りを求めて漂泊の旅を続けたように、鐘崎の漁女たちもあまを求めて、一群は対馬海峡にのって北に進み、また一群は海流に逆い南へ海上の間船を半島の一角に上着した海女たちも一つのあま。アマアルキのものが語話、よく彼女達の生活を表現している。

暑中御見舞申し上げます

玄海国定公園の中心……白砂青松の海水浴場……宗像大杜からバス五分……神旅旅館組合

Table listing various hotels and their phone numbers in Utsunomiya. Columns include names like 松鶴, はま, 勝浦, 川口, 玄洋, 泉館, 友楽, 松風, 喜楽, 大島, 千鳥, 望波, 千成, 高嘉, 玄海, みなと, 魚屋, あけぼの.